

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 柄杓田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」や「言語事項」の問題の平均正答率は、全国平均を大きく上回り、基礎基本的な内容の確実な定着が見られた。 「書くこと」「話す・聞く」の問題においては、課題が見られた。
	よくできた問題	漢字を文中で正しく使ったり、自分の考えを書いたりする問題について正答率が高かった。また、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読む問題についても正答率が高かった。
	努力が必要な問題	資料を読み取って、適切な答えを選択する問題や目的に応じて質問を工夫する問題に課題が見られた。
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域においては、基礎的基本的な内容の確実な定着が見られた。「図形」における問題においては、課題が見られた。
	よくできた問題	単位量当たりの大きさをもとに、求め方と答えを記述する問題の平均正答率が高かった。
	努力が必要な問題	図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題の平均正答率は、全国平均正答率を大きく下回った。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の役に立つ人間になりたいと考えている児童が多く、地域の行事にもたくさんの児童が参加している。 ・ 自分には、よいところがないと思っている児童の割合が、全国平均よりも大きく上回っている。教育活動全体を通して、それぞれのよさを更に認め、自尊感情や自己肯定感を高めていくようにする。 ・ 全員の児童が算数の勉強は大切だと回答しているが、興味関心は低い。算数に対する興味関心を高めていくような授業改善や指導方法の工夫を図っていく必要がある。 ・ 家庭で計画的に勉強をしている児童の割合は多いが、勉強時間の少ない児童が目立つ。 ・ 殆どの児童が決まった時間に就寝・起床しているが、朝ごはんを食べずに登校する児童も見られる。読書に関心を示さない児童の割合が多い。また、児童も学校や家庭での読書量も少ない。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 主題研修(算数科)において、児童主体の学び合いの授業改善をめざし、授業研究を行い、その成果を実践に生かす。
- ・ 学校全体で揃えていくところを柄杓田スタンダード(板書、掲示物等)として作成していく。
- ・ 図書館司書やブックヘルパーとも連携して、読書のよさや楽しさなどを今後も継続して伝えていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 調査結果を踏まえ、家庭生活習慣についての課題を共通理解し、学校便り・学級通信・学級懇談会等を通して、保護者に発信していく。